

2020年5月3日

## 大阪府の感染状況データに関する数理モデル分析報告

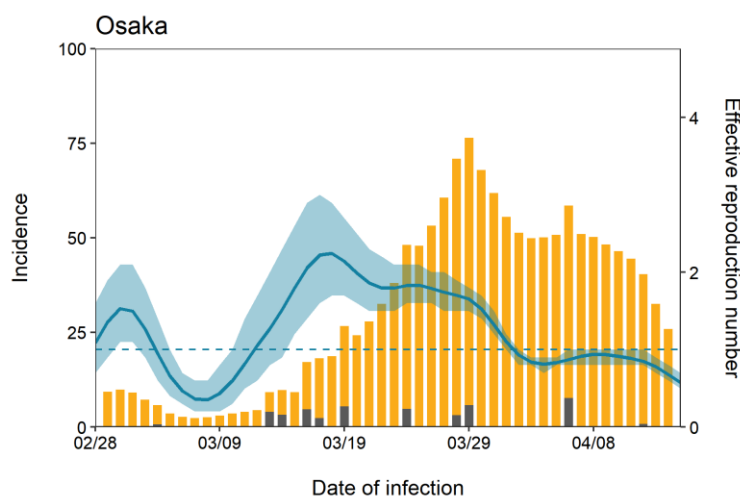
厚生労働省新型コロナウイルス対策本部クラスター対策班

## 1. 概要

大阪府における感染時刻別の実効再生産数の推定を行った。現時点までに実効再生産数は1を下回っているが首都圏や他の都市部と比較して減少速度が遅い。更に接触を削減することが求められる。また、安定的に流行が起こる傾向があり、lift upの際にはハイリスク環境の休業など徹底した対策を要する。

## 2. 実効再生産数

図の通り推定を実施した。最大時点は3月18日の2.2（95%信頼区間：1.7、2.9）、4月14日時点では0.7（95%信頼区間：0.6、0.8）と推定された。推定感染者数のピークは3月29日の71人であり、4月の緊急事態発令までは1日あたり50人の新規感染状況が続いた。宣言直後の実効再生産数は1を割ったものの、0.9以上で経過しており、接触削減が十分でないまま経過したことや院内・施設内感染が複数発生したことが影響していると考えられる。実効再生産数に著変が起こっておらず、安定的に流行し得る環境と考えられる。



## 3. 考察

- (1) 首都圏など他の都市部と比較して、**実効再生産数の低下度合いが十分でない傾向が強い。流行が遷延する傾向にあり、緊急事態宣言下は更に接触を削減する努力が求められる。**飲食店休業や通勤自粛の要請など、府専門家と相談の上で強固な対策を検討いただきたい。
- (2) 実効再生産数が安定的に経過する傾向があり、感染者数が一定数で経過しやすいことや、その背景として大きく人の接触行動が変化していないことを反映していると考えられる。現状では特定警戒地域からの解除シナリオを考え難く、**再流行のリスクが高い地域の1つ**である。特定地域への**移行後もハイリスク環境の休業など、徹底した対策を要する。**